

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 年 月 日

協議会名: 成田市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
ジェイアールバス関東(株)多古本線	八日市場～多古～成田	地域公共交通マップを作成し、市ホームページ等で周知することでバス利用の促進を図った。	A 計画通り事業は適切に実施されている	A 【目標】収支率を1%改善させる。(R6年度収支率49.9%) 【効果達成状況】前年度と比べて、収支率は33.2%改善し、令和7年度収支率は83.1%となった。 【目標達成状況の要因(分析)】運行の見直しや、動力費などの減少による経費削減。	ICカードの利用促進を図るとともに、自治体との連携を強化し、利用者増を目指したイベントへの参加や、地域のニーズに応じた運行改善に取り組む。
京成バス千葉イースト(株)成田佐原線	京成成田駅～来光台～佐原粉名口車庫	中学校卒業予定者へ公共交通の利用促進チラシを配布した。	A 計画通り事業は適切に実施されている	A 【目標】収支率を1%改善させる。(R6年度収支率66.4%) 【効果達成状況】前年度と比べて、収支率は10.1%改善し、令和7年度収支率は76.5%となった。 【目標達成状況の要因(分析)】輸送人キロが増加しており増収となった。	旅客の利便性向上、利用促進のためにホームページや検索サイトへの情報提供等で周知を図り、継続した効果目標達成を目指す。しかしながら、今後、取組について効果が見込めず、目標が達成されることが困難な場合は、再編等の改正も視野に入れていく。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名：	成田市地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域間幹線系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	両路線は、本市の交通結節点である京成成田駅及びJR成田駅を起点として他自治体との連絡を担う路線となっており、地域住民の通勤通学、買物、通院等の日常生活行動における重要な路線となっている。一方で、両路線は運行されている自治体や交通事業者の運営努力のみでは路線の維持が困難であるため、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持していく必要がある。

令和7年度 千葉県における地域公共交通確保維持事業

陸上交通
地域間幹線系統

協議会名・補助対象事業者名

成田市地域公共交通会議
ジェイアールバス関東株式会社

系統名

多古本線

事業の目的・必要性

- 匝瑳高校、多古高校への通学手段
- 成田市三里塚地域の旅客の通勤通学・買い物等

事業の概要・目標・効果

- 路線名 多古本線
- 起点、経由地、終点 八日市場駅～多古台バスターミナル～成田駅
- 系統キロ 35.5km
- 運行回数 3.0回／日
- 目標・効果 令和6年度と比較して収支率1%以上改善
- 利用促進・生産性向上の取り組み
バスの乗り方教室の実施や、学生に対し時刻表等の情報を記載したチラシ等の配布。

● 直近3ヶ年の推移

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
輸送人員（人）	113,362	88,626	76,806
経常収支（円）	▲38,629,976	▲39,358,455	▲6,984,109
収支率（%）	52.3	49.9	83.1
平均乗車密度（人）	5.8	5.8	7.7
補助金額（千円）	9,564	12,316	7,835.5

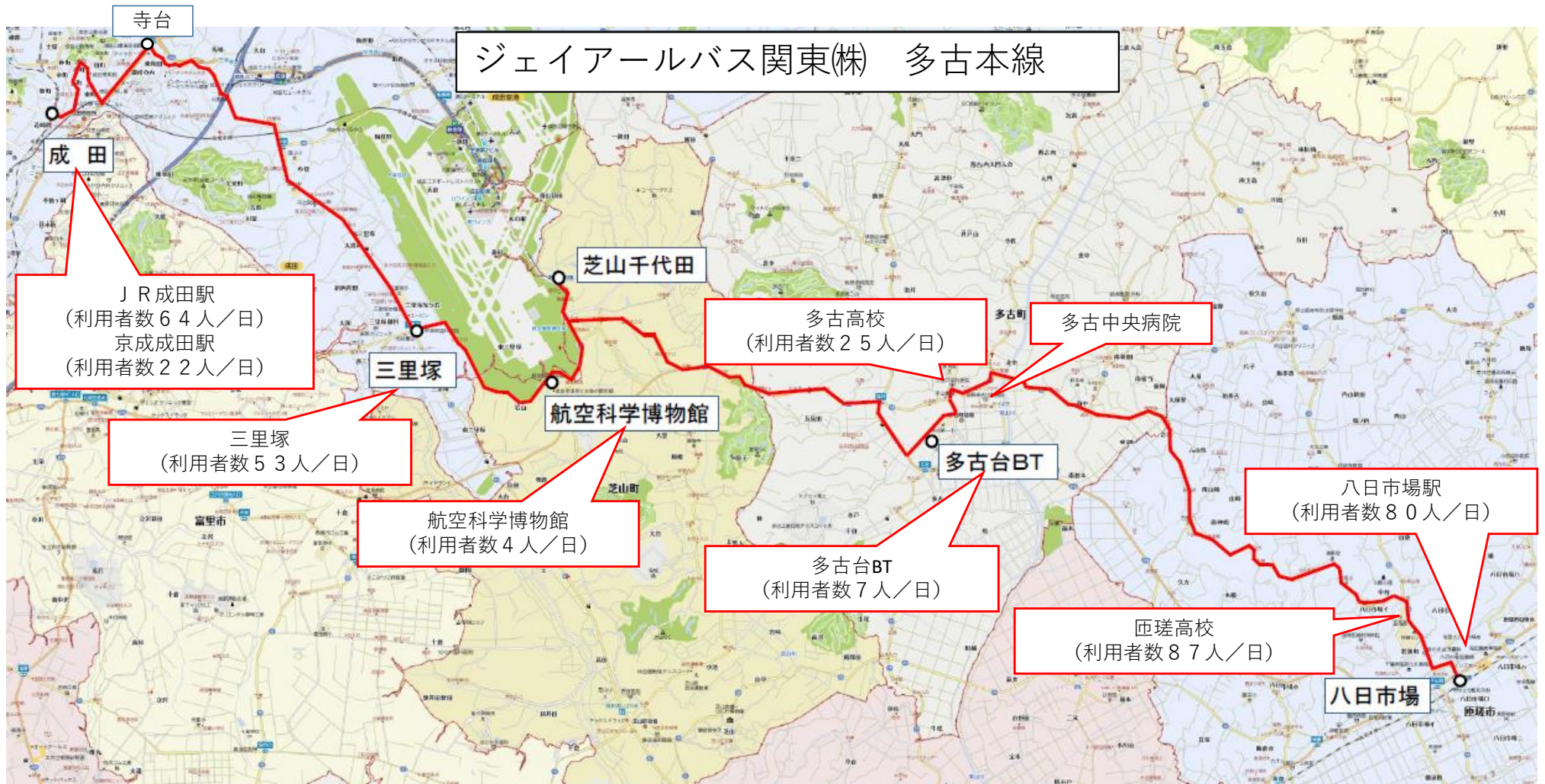
目標・効果の達成状況

- 【達成状況】
収支率は、前年度に比べて33.2%改善し、83.1%となった。
- 【目標の達成状況の要因(分析)】
利用頻度の多い便に絞った減便により、平均乗車密度が改善した。
市内循環バスとの重複ルートを避けたことにより、利用者が増えた。

今後の改善点

ICカードの利用促進を図るとともに、自治体との連携を強化し、利用者増を目指したイベントへの参加や、地域のニーズに応じた運行改善に取り組む。

事業実施区域



【競合区間】

京成バス千葉イースト (寺台～成田、空港南口～三里塚)
ジェイアールバス関東 (八日市場～成田)

系統概要 (R6. 10. 1～R7. 9. 30)

キロ程	平均運行回数	輸送量	経常収支	収支率
35. 5km	3. 0回/日	23. 1	▲6, 984千円	83. 1%

令和7年度 千葉県における地域公共交通確保維持事業

陸上交通
地域間幹線系統

協議会名・補助対象事業者名

成田市地域公共交通会議
京成バス千葉イースト株式会社

系統名

成田佐原線

事業の目的・必要性

- 大栄地域住民の通勤・通学・買い物
- 佐原高校、佐原白楊高校、成田方面の高校への通学手段
- 県立佐原病院、成田方面の医療機関への通院手段
- 佐原駅及び成田駅等交通結節点への交通手段

事業の概要・目標・効果

- 路線名 成田佐原線
- 起点、経由地、終点 京成成田駅～来光台～佐原粉名口車庫
- 系統キロ 29.6km
- 運行回数 12.6回／日
- 目標・効果 令和6年度と比較して収支率1%以上改善
- 利用促進・生産性向上の取り組み
高校進学を控えた学生に時刻表を記載したチラシの配布。
公共交通マップを作成し、市ホームページ等で周知。

●直近3ヶ年の推移

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
輸送人員(人)	208,991	233,149	265,438
経常収支(円)	▲31,157,072	▲38,076,217	▲26,547,921
収支率(%)	68.3	66.4	76.5
平均乗車密度(人)	5.5	5.7	6.7
補助金額(千円)	11,454	16,647	18,014

目標・効果の達成状況

【達成状況】

収支率は、前年度に比べて10.1%改善し、76.5%となった。

【目標の達成状況の要因(分析)】

輸送人キロが増加しており増収となった。

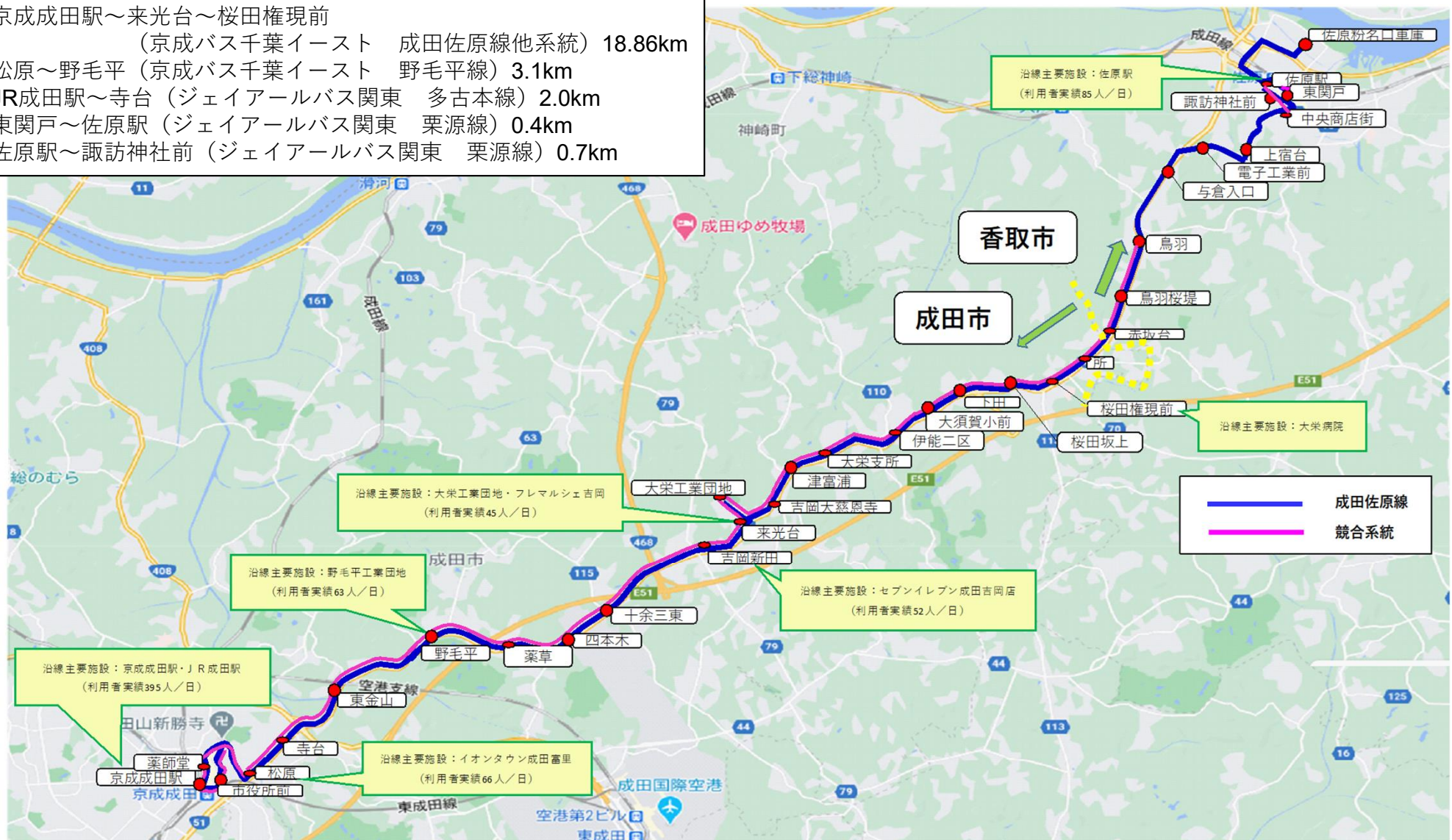
今後の改善点

旅客の利便性向上、利用促進のためにホームページや検索サイトへの情報提供等で周知を図り、継続した効果目標達成を目指す。しかしながら、今後、取組について効果が見込めず、目標が達成されることが困難な場合は、再編等の改正も視野に入れていく。

事業実施区域

【競合区間】

京成成田駅～来光台～桜田権現前
 (京成バス千葉イースト 成田佐原線他系統) 18.86km
 松原～野毛平 (京成バス千葉イースト 野毛平線) 3.1km
 JR成田駅～寺台 (ジェイアールバス関東 多古本線) 2.0km
 東関戸～佐原駅 (ジェイアールバス関東 栗源線) 0.4km
 佐原駅～諏訪神社前 (ジェイアールバス関東 栗源線) 0.7km



系統概要 (R6. 10. 1～R7. 9. 30) 縮尺：1/200,000 0 2km 4km

キロ程	平均運行回数	輸送量	経常収支	収支率
29.6km	12.6回/日	84.4	▲ 26,548千円	76.5%